

廿日市市景況調査 (2016年4~6月)

◇旧廿日市市(合併前の区域)の調査結果になります◇

全国の6月景況 「業況DIは、悪化。先行きも慎重な見方続き、ほぼ横ばいの動き」

6月の全産業合計の業況DIは、▲24.8と、前月から▲2.0ポイントの悪化。なお、本調査期間は英国のEU離脱の決定前であることに留意が必要。人手不足や人件費の上昇が足かせとなる中、消費低迷の長期化や円高進行による受注減に加え、株価・為替の不安定な動きが中小企業のマインドを下押ししている。堅調な観光需要や、原材料価格の下落、春から値上がりしているものの依然として低い水準にある燃料費の恩恵を指摘する声は聞かれるが、中小企業の景況感は足元で弱い動きがみられている。先行きについては、先行き見通しDIが▲24.6(今月比+0.2ポイント)とほぼ横ばいを見込む。夏の観光需要の拡大や、猛暑予測から飲料品や家電製品など夏物商品の販売増加、消費増税の再延期による消費者マインド改善を期待する声が聞かれる。他方、金融市場の不安定な推移などによる、インバウンドを含む消費の一段の悪化や設備投資の減少に対する懸念のほか、人手不足の影響拡大など、景気の不透明感が増す中、中小企業においては、先行きへの慎重な見方が続いている。

会議所管内の4~6月景況「人手不足広がる、業況は下落続く」

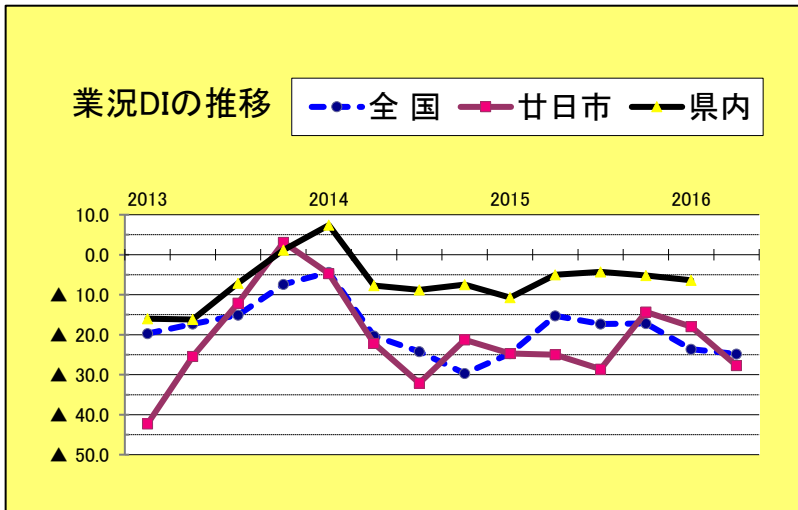
前年同期比では、全産業合計の総合業況DIが▲27.7と、前期(28年3月▲18.0)より9.7ポイント下落した。産業別の業況DIでは、製造業で1.8ポイントの下落、建設業で42.9ポイントの下落、卸小売業で0.5ポイントの上昇、飲食・サービス業で13.4ポイント下落となった。向こう3ヵ月(7~9月)の先行き見通しでは、全産業合計の総合業況DIが▲32.3と前期(28年3月▲19.7)より12.6ポイント下落した。産業別では、製造業で24.8ポイントの下落、建設業で9.9ポイントの下落、卸小売業で0.1ポイントの上昇、飲食・サービス業で20.6ポイント下落の見通しとなっている。

【製造業】	注文が減少 設備を一部改良 輸出 高付加価値商品への移行 8月工事量減少、選挙がある、円高進行 円高
【建設業】	受注単価の下落 利益減少 受注予定あり 若年世代の生活環境の変化と人材不足
【卸小売業】	競合店の影響 売上増加 お客様との信頼関係を築くことで個店は生き残れる 景気の低迷 売上が上昇するとは考えられない、目先を店よりイベント重点 販売不振 市況の低迷 需要の減少 人手不足、仕入価格が不安定 スーパー進出のため売上減
【飲食・サービス業】	同業の増加 昨年度の売上客の維持・客先への提案 団体客の利用減 地産地消強化 景気の沈滞感があるような気がする。消費者格差を感じる。特効薬は無いと思うので地道な営業活動を維持するしかない

業種別 景況概要	全国(6月)		廿日市市 4~6月									
	全産業		全産業		製造業		建設業		卸小売業		飲食・サービス業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
収入・売上	▲21.5	▲17.9	▲37.2	▲28.4	▲15.8	▲21.1	▲35.7	▲7.1	▲50.0	▲42.9	▲37.0	▲25.9
採算	▲20.6	▲19.1	▲28.7	▲28.4	▲10.5	▲15.8	▲14.3	▲14.3	▲41.2	▲42.9	▲33.3	▲25.9
仕入単価	▲21.5	▲20.2	▲26.9	▲22.6	▲10.5	5.3	▲35.7	▲35.7	▲34.3	▲28.6	▲24.0	▲28.0
雇用人員	14.2	14.6	17.6	17.8	5.3	5.3	21.4	28.6	20.6	12.1	20.8	29.2
業況	▲24.8	▲24.6	▲27.7	▲32.3	5.3	▲10.5	▲42.9	▲38.5	▲41.2	▲45.7	▲25.9	▲26.9

※ 全国調査は【日本商工会議所LOBO調査】をご参照ください

(対象 190社 回答 95社)



特に好調	$50 \leq DI$
好調	$25 \leq DI < 50$
まあまあ	$0 \leq DI < 25$
不振	$\blacktriangle 25 \leq DI < 0$
きわめて不振	$DI < \blacktriangle 25$

●設備投資は？

		4～6月	7月～9月 見込み
実施した	土地	2	1
	建物	6	2
	機械	4	5
	車両	3	9
	O A	3	3
	その他	2	5
	計	20	25
実施していない・しない		72	57

※複数回答・無回答あり

●当面の問題点は？

第1位	売上、需要の停滞	37.6 %
第2位	販売単価の低下、上昇難	12.4 %
第3位	従業員、人材の確保難	11.7 %
第4位	消費者ニーズの変化の対応	9.7 %
第5位	新規参入業者の増加	6.5 %

※「その他」はランク外扱い

●DI値（景況判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断状況を表す。ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上など実数値の上昇や下降を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)